

平成29年度福島県相双地域保健医療福祉協議会 議事録

- 1 日 時 平成29年12月20日(水) 14:00～15:40
- 2 場 所 福島県環境創造センター環境放射線センター 大会議室
- 3 出席者 委員18名(代理出席含む。)
事務局(福島県相双保健福祉事務所) 20名
- 4 議 事 (1)福島県相双地域保健医療福祉推進計画の進行状況について

5 審議経過

- | | |
|--------------|---|
| 司会(吉田総務企画課長) | ○ 開会 ○ 配付資料の確認 |
| 飯沼所長 | ○ 挨拶 |
| 樋口会長 | ○ 挨拶 |
| 司会 | ○ 新任委員紹介 ○ 設置要綱の説明 ○ 本日の会議運営の説明 設置要綱第6条第2項の規定により、会議の議長は会長が行うとされていることから、樋口会長を議長として、議事に入る。 |
| 樋口議長 | 議題(1)「福島県相双地域保健医療福祉推進計画の進行状況について」、事務局から説明願う。 |
| 荒川総務企画部長 | ○ 資料1により、福島県相双地域保健医療福祉推進計画の施策の進行状況の概要について説明 ○ 資料2により、福島県相双地域保健医療福祉推進計画の指標の達成状況の概要について説明 |
| 西浦委員 | 先日の新聞で、寿命について、本県女性は全国43位、高いのが長野県、ワーストが青森県という記事を、皆様も御覧になったと思う。要因として、検診率の低下、受診率向上を目指しているとの記載があった。 一方、資料2の目標値実績を見るとA(達成)となっているがこの点をどう捉えているか伺いたい。検診率の母体とする数値が違うのではないか。 |

樋口議長 寿命についての現状と、検診実績との関係がどうなのか。資料2に指標が出ているが、報道内容と合わないのではないかとのことである。

中島健康福祉部主幹兼副部長 特定健診については、受診率が元に戻りつつあるが、やはり県外避難者がいらっしゃるので、対象者の把握が難しく、また、受診の手続き等の面で市町村でも苦労されている。

がん検診についても、受診しやすいような仕組み作りを工夫しているので少しずつ伸びているところである。ただ、理想とするところには、まだ及ばない。

長寿については、検診率の問題もあろうが、今盛んに言われているように、生活習慣病等さまざまな問題が複合的に絡み合っていると思われ、その辺を改善しながら対応していく必要があるものと考えている。

樋口議長 寿命となると、福島県では心筋梗塞が多いなどとも言われているように、検診率だけでは捉えきれないということになるかと思う。

資料2の8～9ページを見ると、胃がんは30%台でB、肺がん50%でA、大腸がん、その他乳がん、子宮頸がん、概ね設定値には近くなっており、中にはAというものもあるのかと思う。

さて、基本目標別に質疑や意見を受けたいと思う。まず基本目標1について伺う。

佐々木委員(代理 菅野副部長) 資料1の2ページ、施策の取組の方向性2つ目の◆に甲状腺検査の拠点となる医療機関の確保等とあるが、相双地方にはあるのか、どこになるか教えて欲しい。

樋口議長 甲状腺検査には採血検査とエコーがあり、ここではエコーについて述べていると思う。私の知る範囲で申し上げれば、県医師会でエコーのできる医師を養成しており、この地域では、病院としては南相馬市立総合病院、個人開業医で新地町のカンノ先生、本日ここに金田先生が来ているが、公立相馬総合病院でもエコーはできるか。

金田委員 対応できる。

樋口議長 それから、恐らく鹿島厚生病院のワタナベ先生、ここ南相馬市(原町区)

だと、開業医の小泉先生。ある程度の先生方が、医師会の研修を受けて対応している。申込方法等の手続き等は承知していないが。このような回答でよろしいか。

佐々木委員(代理 菅野副部長)

了。

金田委員

院長になってまだ1年半で以前のことが分からないので、質問というより教えていただきたい。2ページの地域医療復興事業の詳細について、今この場ででなくても構わないので、できれば資料で見せていただきたい。今後の参考にしたいのでいただきたい。

樋口議長

今までどこの病院でどんな実績がという具体例が知りたいとのことである。私にも補助金を活用してCTを導入した等々の話は聞いており、県で尽力いただいていることと思う。事務局に後ほど対応をお願いしたい。金田委員それでよろしいか。

金田委員

了。

西浦委員

資料1の5ページの一番下。介護職を目指す学生向けの補助制度を、地域限定、恐らく南相馬市だと思うが、29年度当初予算で措置したが、残念ながら1人しかいなかった。介護職を目指している学生は恐らく沢山居るはずだが、この件についてどう捉えているか、30年度の展望も含めて伺いたい。

菅野健康福祉部長

介護人材に関して今年度新規事業として創設した補助事業についての御質問かと思う。御指摘あったとおり、今年度の実績は1名であった。我々としても、事業の一層の周知を図りたいと考え、管内の高校を回ったところであり、県本庁でも県内及び仙台の養成学校に対して周知依頼をして回ったところだが、結果としては1件となった。

原因には、周知不足もあろうかと思うが、学校を回っている中で先生からあった話として、就職に際して、地域に戻って事業所に5年間継続して従事しなければならないという条件がネックだという意見を親御さんからいただいているとのことであった。就職にあたってはなるべく制約の無い中で決めて欲しいという親御さんの願いがあって、活用に結びつかないと

いう面があるようだ。この点については、今後、継続期間の見直しといったことも含め検討する必要があるのではないかと考えている。

樋口議長 続いて、「基本目標 2 生涯にわたる健康づくりの推進」について質問等はないか。

熊倉委員には、この地域では、震災で鬱病患者さんが実際に増えているのかどうか、頻度の割合について、以前南相馬市で高校生自殺なども起きたこともあり、鬱病と自殺の関係についてお聞きしたかったのだが（※）、事務局では、これに関しての統計は持っているか。

※熊倉委員は所用により途中退席

菅野健康福祉部長 自殺者数については当所で把握しており、資料 2 の 6 ページに記載がある。自殺者数は、全国的な傾向として減少傾向にあり、福島県、相双地方においても同様である。28 年は前年に比べかなり減少している。

樋口議長 了解した。

なお、基本目標 2 のがん関係だと、県でも取組を一生懸命やっていると思うが、国でもがんに対する対策は方向が変わったりしている。がんの予防・検診の中身も今後変わってくるかもしれない。

続いて「基本目標 3 地域医療の再生」について、御意見や御質問は無いか。

菅野明彦委員 資料 1 の 18 ページの医療安全研修会は毎年開催していると思うが、年間行事として決まっているのであれば早めに教えていただきたい。

外島医療薬事課長 今年度は、2 月下旬から 3 月にかけてを予定している。決まり次第御案内するのでよろしくお願ひしたい。

樋口議長 内容についての見込みは。

外島医療薬事課長 まだ所内調整中だが、先日医師会に御要望を伺ったところ、「院内感染」との声があったそうなので、その方向で検討している。

金田委員 今の件に関連して、当病院で、年に十数回医療安全研修会をやっている。相馬市・新地町の医師会の先生には案内しており、よろしければ歯科医師

| | |
|----------|--|
| | 会にも御案内させていただくが、いかがか。 |
| 菅野明彦委員 | よろしく願います。 |
| 金田委員 | 了解した。 本題だが、資料2の16ページ、出生数について伺いたい。生まれたという届出があった数値でよろしいか。出生届出数という意味か。 |
| 荒川総務企画部長 | 指標の説明に記載のとおり、管内の市町村に届け出られた生まれた子ども数である。 |
| 金田委員 | この協議会で問題にしなければならないのは、出産のことである。震災前からのことではあるが相双県内でお産のできる施設は少なくなっていて、相馬市では1施設のみ、南相馬市を含めても確か3箇所しかできない。この出生数を全部当地域で受け入れてはいないと判断している。この数値の中には、他地域すなわち仙台や岩沼で産んでこられる女性達がいらっしゃるわけである。それがどれ位いるのか。それこそが、我々医療機関の充実を図るべき立場からすると把握したい数値である。データがあるのであれば教えていただきたい。 |
| 荒川総務企画部長 | 今は手元に資料がないので、戻って確認させていただきたい。 |
| 金田委員 | ありそうか。この地区の施設で生まれた数だけでも分かれば良い。残り引き算すれば出てくる。 |
| 荒川部長 | 調べてみたい。 |
| 樋口議長 | その他には無いか。 では「基本目標4 安心して子どもを産み育てられる環境づくり」について。 無いようなので、「基本目標5 ともにいきいき暮らせる福祉社会の推進」についてはどうか。 |
| 佐々木委員(代) | 資料1の28ページ(5)介護・福祉サービスの充実に、市町村におけ |

| | |
|--------------|--|
| 理 菅野副部長) | る認知症対策の支援とあるが、主な取組実績欄に対応する記載が無かったので、何か実施しているものがあるか、教えていただきたい。 |
| 菅野健康福祉 部長 | 市町村に対する認知症対策支援としては、本庁主催が殆どではあるが、各種研修事業を実施している。また、来年4月までに地域包括ケアシステム構築を進めていかねばならず、そのための認知症サポート医を指定しなければならぬということなどがあり、そういった諸々の体制整備についての支援をしているところである。 |
| 樋口議長 | 他には無いか。 それでは、看護協会から、県の取組について意見はないか。何でも結構である。 |
| 湯澤委員 | 毎年、看護職に相双地区へ来ていただくためのバスツアー等をやっているが、実際に FUKU ★ BUS ツアーで相双地区に就職した方はいらっしゃるか。 |
| 外島医療薬事 課長 | 2、3年前には見学ツアーを通して3～4名ほど就職した実績があったかと思う。残念ながら、昨年、今年については、直接就業に結びついたという実績は無かったが、当地域に関心を持っていただくために、今後とも継続していく計画である。 |
| 湯澤委員 | 県外からもか。 |
| 外島医療薬事 課長 | ツアーの対象は県内である。県外向けには、出向いて就職説明会などを実施してこの地域への就業促進をしている。 |
| 湯澤委員 | もう1つ、看護職員の県内定着について。4ページに、教育環境の整備促進とあるが、内容について具体的に教えていただきたい。支部長になって初めての出席なもので、申し訳ないがよろしく願います。 |
| 外島医療薬事 課長 | 的を得た回答になるかどうか、お求めになっている回答になっていなければ、改めて回答申し上げたいと思う。 例えば浜通り看護職員確保事業の中に、看護職の資質向上を図る観点から、進学への支援、教育担当者の育成、或いは県外からの就業者の住居確保 |

への支援を行っている。

また、ふるさと就職促進事業というものがあり、旧緊急時避難準備区域にある病院が、看護職員を確保するために行っている取組に対する経費支援を行っている。

加えて、当地域の現状を知っていただくため、先ほど申し上げた FUKU ★ BUS ツアーがある。

看護職確保あるいは環境整備の事業に関しては、さまざまな事業メニューがあるため、詳細にということであれば、本庁にも確認し、後日回答差し上げることにはしたい。

湯澤委員

多分、南相馬市と相馬市では違うと思うので、具体的に知りたくて質問した。

八牧委員

薬剤師会の会長になって2年で不案内なところもあるので御教示願いたい。

資料1の22ページに、ファミたんカードの利便性向上について取り上げられている。資料2で実績を見ると、かなり減少傾向にあるようだ。この中には薬局も入っているのかなと考えていた。もし加入している薬局さんがあれば教えていただきたい。また、今後薬局として関わることがあるとすれば何か、教えていただきたい。

菅野健康福祉
部長

事業者の中に薬局が入っているかについては手元に資料がないので、調べた上で後ほど回答したい。

八牧委員

もう1点、資料1最後の36ページの災害時の医薬品等備蓄品とは、どういった内容のもので、使用期限のチェック等はなされているのか。以前南相馬市の危機管理課の方に聞いたところ詳しいことを御存知ではなかったのだからここで伺いたい。

尾形医療薬事
課専門薬剤技
師

県では、疾病毎の医薬品リストを作成している。この地域だと、恒和薬品が主となるが、ランニング備蓄という形をとっており、通常卸さんで取り扱っている薬品のうち、災害時には指定の薬品について指定の数量を優先的に医療機関に渡していただく。つまり、特定の在庫を抱えているのではなく、従って使用期限等の問題はない。

併せて、医療機器についても同様に品目等を定めてランニング備蓄を行

っており、こちらはサンセイ医機にお願いしている。

以上により、災害が起きた際には、県が定めた数量を届けることができるような体制をとっている。

青田委員

今日配られた第七次福島県医療計画の素案9ページに平成27年の年齢調整死亡率が出ている。福島県は全国6位、女性は全国2位という余りよろしくない結果が出ている。201ページにも、心筋梗塞についての年齢調整死亡率の数値が悪いとある。12月1日付けの民報新聞に避難地域のがんの疑い割合が出ていたが、他地域に比べて倍の数値、要するに悪くなっている。ということは、今回県の素案で出した順位、パーセント、数値は、避難区域ではどうなっているのか、非常に気になる。同じ福島県でも、他地域と同じなのか？違うと思う。ここで何かが起きているのではないかと懸念している。死亡記事欄を見ると、以前と比べてなんとなく相双地域が多いような気もする。実態がどうなっているのかを踏まえた上で、施策をどうしていくのか。医療福祉の根っこが大変なことになっているのではないかと思う。

医療、福祉、目一杯頑張っていると思う。にも関わらず悪い数値、大きな課題があるとすれば、もう少しきっちりと調べていただいて、その上で私たちが何をしなければならないか考えていって欲しい。

特に、がん、甲状腺は、風評被害という形で言われている。本当にそうなのか。県民感情と、県の県民健康調査委員会の言い方には乖離がある。それを埋めていかないと、不安の中で、風評は止まらないであろうと思う。

障がい児について。この地域で障がい児を産んだ母親の方は、なんでここで産んだの、だから障がい児なんだよねと、相変わらず言われている。お母さん方は、自己責任というとらえ方になる。決してそうではないのだが。放射能の影響で生まれたのではないか、ということからひいては障がい児は生まれてはいけない、となり、またここで優生思想が生まれる。障がい者は生まれては駄目という思いが、神奈川の相模原と同じような形で、実は根っこにあることを眼前に突きつけられる。お母さん方からのこの言葉は重い。

更に言えば、南相馬市の3歳児検診の数値を、県でも確認して欲しい。3歳児検診或いは1歳児検診の結果、何らかの支援が必要な子どもの割合は40%～50%。他地域がどうかまでは分からないが、これはあり得ない数値ではないか。ここでも何か起きている。県でももう少し踏み込んでもらって対策をとっていただかないと、子ども達が大きくなってどうなる

のか。このままここで安心して暮らせるのか。基本目標6 標題にも安心して
きる生活とあるが、実態を知っていただきたい。

それから、この地域で福祉と医療をつなげることはもの凄く大変なこと
だ。しかし相双地域では、厚生労働省が定める地域別単価が、震災後に下
がった。これは県に頑張ってもらわないと駄目だ。是非、県の方からおか
しいだろうと声を上げていていただかないと、地域が持たなくなる、そ
ういう現実があることを申し上げたい。

樋口議長

食生活改善推進協議会の菅野委員、何か御意見等あれば。

菅野一代委員

「私たちの健康は私たちで」をモットーに活動している。避難指示解除
になり、浪江町、双葉町とあと一カ所では会員が戻ってないが、その他は
戻った。今年は檜葉町さんにお邪魔するなどして、会員増強を図っている。

食育は家庭の中から、子どもが小さいうちから。朝ご飯を食べない子が
結構いるということから、学校や学童保育の場に入らせていただいて必要
性を説明するなどして食育を進めているところである。

それから、さきほど金田委員から出生数の話が出た。私は飯舘村の者で、
村にはお産ができる施設がなく、孫が9人居るが、全員、伊達と福島で生
まれている。急変時は県立医大に世話になったが医大も村からはかなり遠
く、だいぶ苦勞した。飯舘も相双なので参考まで、余計なことだが申し上げた。

樋口議長

資料2の13ページの指標1は、私たち医者に関すること。⑥分析に「小
児科、産婦人科等の医師が不足している」とあるが、付け加えていただけ
るのであれば、泌尿器科や整形外科なども不足していることを、ここで申
し上げておきたい。

一通り御意見をお伺いした。事務局には参考にしていただきたい。

各委員からは貴重な御意見に感謝する。

以上で議事を終了する。議事進行への協力に感謝する。

6 その他

吉田総務企画
課主査

○ 第七次福島県医療計画及び第三期福島県医療費適正化計画素案への
意見照会について説明

| | |
|----------------------|------------------|
| 佐々木委員 (代 理 菅野副部長) | ○ 交通費等助成事業について案内 |
| 司会 | ○ 閉会 |